

オハイオ州フィンドレー大学奨学生レポート 10月  
2か月が過ぎて

充実している時に感じる時間の流れは非常に早く Findlay で生活し始めてから、あっという間に2か月が過ぎてしまいました。気温が低くなった10月の Findlay の夜はコートが無いと出歩くのが厳しいです。今月は、ハロウィンパーティーやデトロイト日本国総領事懇談会など様々なイベントがありました。アメリカで勉強させていただけるというチャンスをいただき、その貴重な時間を無駄にしないために、どのように日々を過ごしていくべきか、また、その経験を日本に持ち帰ってどうしていききたいのかを熟考させられるきっかけにもなった月でもありました。10月の奨学生レポートでは、それらの出来事について報告させていただきたいと思います。

ハロウィンはヨーロッパ起源の民族行事ですが、アメリカ人にとっても非常に重要な日であります。ハロウィンの日には、様々なイベントを町のあちこちで見ることができ、私は、友人宅のハロウィンパーティーに参加しました。みんな個性豊かな衣装を着て来てお互いを楽しませる中、バッチリと化粧をきめた私は、Aphrodite (恋愛の女神) の衣装でパーティーに登場しました。序盤は、どっとみんなの注目を得ることができたのですが、時間が経つにつれ化粧が落ち、最後は、山奥で修業に精進する仙人のような姿になってしまい、もはや見る影もなくなっていました。

アメリカでは、日本と比べると頻りにパーティーがあり、パーティーを通して様々な友人ができます。また、アメリカ人には、お互いの歳が離れていても気軽に気さくにふるまうという側面があるので、彼らには、歳が離れた友人が沢山いることも知りました。日本には先輩後輩の文化がある為に友人が同い年に限定されてしまうような気がします。過去に、日本に在住していたアメリカ人の知人に「日本人は友人を限定してしまい排他的である」と言われたことがありました。その時は、非常にショックを受けたのですが、日本人の私がアメリカの文化を知っていくうちに、彼がなぜそのようなことを発言したのかが分かってきました。日本を離れたくない若者が増えてきている現代の日本社会ですが、私達には異文化を通して学ばなければいけない課題が山ほどあるような気がします。



大学の友人達とのハロウィンパーティー

フィンドレー大学言語文化学科長の川村准教授、他奨学生と共にダブリンに出向き、デトロイト日本国総領館の松田邦紀総領事とお話をさせていただく機会がありました。総領事のお話の中で、「オハイオには日本をサポートしたい人達、または、日本と関係を持ちたい人達が沢山いることを君達奨学生は知る機会を得ているのだから、その情報を日本の地方の人達と共有して、ぜひ地方とオハイオを結ぶような事を将来してほしい」とおっしゃっていたことが感慨深く心に残っています。総領事のお言葉は、この経験を生かして将来日本で何ができるのか、どうしたいのか、またどのような目標設定をするべきなのかを、より広い視野で考え直すきっかけを与えてくださいました。



総領事との記念撮影

川村宏明准教授(左)、松田邦紀総領事(中央)